

《ベトナム》 共産党指導部・国家機関・政府の新体制 マイン党書記長・チェット大統領・ズン首相

ベトナム国会は6月下旬、新大統領に前ホーチミン市共産党委員会書記のグエン・ミン・チェット氏、新首相に前第一副首相のグエン・タン・ズン氏を選出するとともに、ズン新首相が提案した外相、国防相、財務相など10ポスト(兼任1人、初入閣8人)の内閣改造人事を承認した。国家・政府人事が決定したことで、4月の共産党大会で再任された党内序列第1位のノン・ドゥック・マイン書記長を“調整役”にするベトナムの新しい集団指導体制が確立した。

*党指導部人事=ベトナム共産党(CPV)第10回党大会(会期:2006年4月18日~25日)で承認。

*国家機関・政府人事=第11期国会第9回会議(会期:2006年5月16日~6月29日)で承認。

*閣僚リストでカタカナ氏名の前の#印は、上記国会が承認した国家・政府人事での(異動を含む)新任者を示す。

《ベトナム共産党(CPV)》

■書記長

General Secretary, Communist Party of Vietnam
 ノン・ドゥック・マイン
 Nong Duc Manh



今年(2006年)4月に開かれたベトナム共産党(CPV)第10回党大会で同国の“最高指導者”である党書記長への再任が承認された。ただ、党大会の直前に発覚した運輸省における大規模な汚職事件などに関連して、同(マイン)氏の指導力不足を批判し、引責辞任を求める党内批判勢力が台頭したために再任の決定までには相当の紆余曲折があった。

(批判勢力は、経済発展著しいホーチミン市トップのグエン・ミン・チェット党委員会書記〔当時:現大統領〕を書記長候補として推したこともあり、党大会直前の中央委総会でも次期書記長が内定しない異例の事態となった。最終的には、権力闘争や党内の混乱を回避する意味でもマイン氏の

続投が妥当だとする現状維持派が党大会で大勢を制したことから、チェット氏が書記長候補を辞退した。また、党大会は、マイン氏が率いる政治局員14人・書記局員8人の選出など党指導部人事を承認した)

元来が“調整型”の指導者である上に、書記長再任までの経緯もあり、二期目の求心力の低下を指摘する声も出ている。6月下旬に国会で選出・承認されたチェット新大統領とグエン・タン・ズン新首相(前第一副首相)という2人の改革派実力者と新たな集団指導(「トロイカ」)体制を組んで、今後の5年間ベトナムを牽引していくことになる。

(党大会では、採択から20年がたつ改革・開放路線のドイモイ〔刷新〕政策による市場経済化の加速をうたった政治報告を採択した。その実現に向けた当面の懸案は、11月にハノイで開催が予定されているアジア太平洋経済協力会議〔APEC〕首脳会議を成功させることであり、年内の世界貿易機関〔WTO〕加盟に向けた交渉の促進である)

※北部の少数民族・タイ族の出身。ベトナムでは少数民族出身者が最高権力者のポストに就くのは独立後初めて。1991年に49歳の若さで政治局入りし将来を嘱望されてきた。92年から国会議長を2期務め、国会改革に手腕を発揮。第8回党大会(1996年)の時点で書記長候補の一人として名前が挙がったが、2001年の第9回大会で書記長就任が実現した。

▼データ:【年齢】65歳(1940年9月11日生まれ)【生地】(北部)バクカン省(旧バクタイ省)【人種】少数民族タイ(Tay)族【学歴】1961年:ハノイ中央農林中級学校卒。65-66年:ハノイ外語学院(ロシア語)に

在籍。66-71年:(旧ソ連・レニングラード)林業大学林業経済学部留学。74-76年:グエン・アイ・クック党高級学校で研修。【経歴】1958年:革命運動に参加。62:バクタイ省林業事務所勤務。63年7月5日:共産党に入党。バクトン木材開発隊副隊長(-65年)。73年:同省フルオン林業場所長。76年:同省党委員会委員、同省林業事務所副所長。77年:同所長。80年:バクタイ省人民委員会副委員長。84年:同省党委副書記・人民委員会委員長。86年:同省党委書記、党中央委員候補(第6回党大会)。89年:党中央委員(第6期第6回党中央委総会)、党中央少数民族委員会委員長、11月:国会議員に選出(第8期国会補選)、国会少数民族委員会副委員長。91年:党政治局員に選出(第7回党大会)。92年:国会議長に就任(第9期国会)。96年:党政治局員に再任(序列第4位、第8回党大会)。97年:国会議長に再任(第10期国会)、政治局常務委員。01年4月:党書記長(序列第1位)に選出(第9回党大会)。06年4月25日:党書記長に再任(第10回党大会)。

【横顔】人とソフトに接し、聞き上手な“調整役”というのが周囲の評。長幼の序を重んじ、集団指導的なベトナムの体制の中で着実に党の階級を上ってきた。元来の政治的立場は“中間派”と目されており、書記長就任には改革派の後押しがあったが、保守派にも受け入れられた。党内で指導力不足を問う声はあるものの、明確な政敵をつくることはない。

*母親が「建国の父」ホー・チ・ミン元大統領の知遇を得ていたことから「元大統領の『隠し子』」との噂が流布しており、党内での異例の出世をそれと関連付ける消息筋もある。ただし、本人は「すべてのベトナム人にとってホー・チ・ミンは父親だ」

として噂をやりわりと否定してきた。

＊〔訪日歴〕1995年12月：(国会議長として)土井衆議院議長(当時)の招待により訪日。村山首相(同)らと会談。宮崎県の林業事情を視察。2002年10月：公賓として、ベトナム共産党書記長としては約7年ぶりの訪日。小泉首相らと会談。日本の政治家には知人が多い。

《国家機関》

■大統領(国家主席) President

#グエン・ミン・チェット

Nguyen Minh Triet



第11期ベトナム国会第9回会議が閉幕する直前の6月27日、新首相にグエン・タン・ズン前第一副首相が選出されたのに先立って、同(チェット)氏が新大統領(国家主席)に選出された。出席していた国会議員の94%という圧倒的な信任を得た。

(同国会では、4月の党大会で政治局員から退任していた69歳のチャン・ドゥック・ルオン大統領〔当時〕と72歳のファン・ヴァン・カイ首相〔同〕の辞任が正式承認され、両氏の後任としてチェット新大統領とズン新首相が選出・承認された。チェット氏とズン氏は、“最高指導者”であるノン・ドゥック・マイン党書記長と「トロイカ体制」を組み、改革開放路線の「ドイモイ(刷新)」政策の加速や汚職撲滅に取り組む。同体制は従来、書記長・大統領・首相のポストをそれぞれ北部・中部・南部の出身者に割当てる暗黙の原則があったが、今回はカマウ省出身のチェット大統領、ビンズオン省出身のズン首相と2人が南部出身者となった。また、党大会の直後に国家機関・政府の改造人事が実施され、前大統領と前首相が任期を1年残して退いたのも異例である。APEC首脳会議の開催やWTO加盟に向けた交渉に新しい体制で臨むには今国会で指導部を交代させる必要があったとみられる)

1997年に党中央大衆動員委員長として政治局入りし、2000年から南部の商都ホーチミン市の党委書記を務め、市場経済の

“最前線”で外資導入などに大きな成果を挙げてきた。大統領に就任した直後の記者会見では、内政の課題として党・政府内で蔓延する汚職の撲滅に対する決意を示すとともに、外交分野では「米国、中国との友好・経済関係を強化したい」と語った。ベトナムの大統領職は“儀礼的”な色彩が強いが、同(チェット)氏は前任者よりも政治的な発言力のある大統領となるだろう。就任後初の大仕事はAPECのホスト役である。

※60年代からサイゴン(現ホーチミン)で学生・青年運動を率いてベトナム戦争を戦った。南北統一後も、党務では共産青年同盟、青年協会などの指導者として頭角を現した。「ホーチミン市の顔」として経済政策での手腕が評価された同氏は、党内に一定の支持基盤があり、4月の党大会では現職のマイン書記長の対立候補に推されたが、最終的に候補を辞退した。その後、大統領への選出が党内で内定した。

▼データ：【党務】ベトナム共産党(CPV)政治局員【年齢】63歳(1942年10月8日生まれ)【生地】(南部)ビンズオン省【学歴】理学士(数学専攻)。74-76年：グエン・アイ・クオック党高級学校で研修。

【経歴】1960年：(旧)サイゴン大学(数学専攻)に在籍中に反(南ベトナム)政府学生運動を経て革命運動に参加。サイゴン・ザーディン地区で活動。63年：人民革命青年同盟中央委員。65年3月30日：共産党に入党、党中央委南ベトナム管区青年同盟書記。戦闘の前線で活動(ミトー)。74年：青年同盟事務局次長。81年：青年同盟中央執行委員、ホーチミン共産青年同盟中央書記・ベトナム青年協会副会長兼書記長。88年：(南部)(旧)ソンベ省党委員会委員候補。89年：同省党委第一副書記。91年：党中央委員に選出(第7回党大会)。91年：ソンベ省党委書記、国会議員に選出(第9期国会)。97年：ホーチミン市党委副書記、12月：党政治局員に選出(第8期第4回党中央委総会)、党中央大衆動員委員長。2000年：ホーチミン市党委書記。02年5月：国会議員に再選(第11期国会)。06年4月：政治局員に再任(第10回党大会)、6月27日：大統領に選出・承認(第11期国会第9回会議)

【横顔】「ざっくばらんな人柄で柔軟な改

革派」というのが外交関係者の評。また、ホーチミン市で暗躍していたマフィアのドン、チュオン・ヴァン・カム(通称ナムカム)の逮捕など汚職や犯罪の撲滅に尽力し、クリーンなイメージがあることも広範な国民の支持を集めている。

■副大統領(副国家主席)

Vice President

チュオン・ミ・ホア

Truong My Hoa

(2002年7月25日就任)

《国会》

■国会議長 Chairman, National Assembly

#グエン・フー・チョン

Nguyen Phu Trong

4月の党大会で前任者のグエン・ヴァン・アン氏(69)が党政治局員を退任したことに伴い、国会議長への選出は事実上党内で内定していた。国会で6月26日に正式に選出・承認された。信任率は85%。1944年4月生まれの62歳。ハノイ市出身で党組織の構築に優れた能力を発揮してきた。

【前職】ハノイ市党委書記／党中央理論評議会議長

《政府閣僚》

(2006年6月28日：国会が改造人事を承認)

■首相 Prime Minister

#グエン・タン・ズン

Nguyen Tan Dung



第11期ベトナム国会第9回会議で承認された国家機関・政府人事に関して海外メディアが最も注目した人物であり、現在のベトナムを代表する若手の政治指導者といえる。1996年の第8党大会の際、最年少で閣僚などの要職についていない立場(副内相)で政治局入り。また、事実上の「最高意思決定機関」である政治局常務委員会(5人)にも入り注目を浴びた(同委員会は2001年に廃止)。97年から第一副首相に抜擢され、今国会で統一ベトナム成立後最年

少の首相に選出・承認された。

(ズン氏の異例のスピード出世に関しては、チェット大統領同様に経済の中心である南部出身の改革派として紹介されることが多い。確かに、党経済委員長、国家銀行〔中銀〕総裁などを経て、経済・国内問題担当の第一副首相として改革派のファン・ヴァン・カイ前首相を支えてきた経歴や、金融健全化など国有企業改革に示した手腕などは同氏の経済政策面での能力の高さを物語っている。しかし、同氏は長期の軍歴を持つ公安部門の専門家でもあり、80年初頭からベトナム軍による“カンボジア侵襲”の要衝だった南部・キエンザン省で軍関連の要職にも就いた側面もある。また、2001年以降に発生した中部高原地帯での「モンタニヤード〔山岳民族〕暴動」でも、その鎮圧に能力を発揮した。要するに、同氏は「ドイモイ」政策を推進する一方で、共産党の一角独裁体制を維持するための政治・治安面での統率力を持ち合わせている点が党指導部の高い評価に繋がっているのである)

一部の邦字メディアでは、同(ズン)氏が“親中派”であることを警戒する論調もみられる。ベトナム政府が公表した経歴には記載されていないが、同氏には中国留学の経験があるとされている。また、親日家だったカイ前首相が邦人企業の要望に耳を傾け、様々な優遇措置を講じたのに比べて、日本への関心がほとんどなく、中国との友好・経済関係の強化に重点を置いているとの指摘もある(中国政府がズン新首相の誕生に大きな期待を寄せているのは確かである)。ただ、中国留学を公表しないのは、米国や日本との関係も重視するベトナムの全方位外交の推進にとって、“親中派”というレッテルを貼られることが得策ではないとの配慮があることも見て取れる。同氏は“親中嫌日”ではないことを、今後の具体的な政策と行動で示さねばならないだろう。

※12歳で革命(ベトナム戦争)に参加したとされている。人民軍では少佐(キエンザン省人民軍司令部に勤務)にまで昇進したのちに、地方の党委員会幹部に転じた。党中央では公安部門を担当したのち、96年に最年少で党政治局員に抜てきされたことは上述した通り。

▼データ：【党務】ベトナム共産党(CP V)政治局員【年齢】56歳(1949年11月17日生まれ)【生地】(南部)カマウ省(旧ミンハイ省)【学歴】法学士(高等政治理論)、81-94年：グエン・アイ・クォック党高級学校で研修。【経歴】1961年：(南部)旧ラックザー省内で民族解放闘争に従事(衛生中隊)、第207歩兵大隊政治主任(上尉)、第152歩兵連隊政治主任(大尉)、(南部)キエンザン省人民軍司令部人事委員長(少佐)、81年：キエンザン省党委常任委員、同省ハティエン県党委書記、同省党委第一副書記・同省人民委員会委員長、同省人民軍党委書記。95年：副内相、党中央公安委員。96年：党政治局員(常務委員)に選出(第8回党大会)、党中央委経済委員長。97年9月：第一副首相(-2006年)、98年5月：国家銀行総裁兼任(-99年11月)、国家財政金融評議会議長、中部高原常任委員会委員長、党中央委国有企業改革委員会委員長、党中央委犯罪対策委員会委員長、2006年6月27日：首相に選出・承認(第11期国会第9回会議)【家族】1男1女の父。

【横顔】カイ首相(当時)が改革派と目されていたことから、第一副首相就任当初はカイ氏との勢力バランスをとるための閣内保守派との見方が強く、外交筋では保守派を率いるレ・カ・フュー書記長(当時)の有力な後継者との見方もあった。しかし、01年にマイン書記長が就任したこともあり、同(ズン)氏はむしろ改革派と保守派のバランスがとれる「実務的」な指導者とみられるようになった。この見方は現在でも概ね妥当だろう。

*同氏の経歴に関連して、①南部出身者とされているのに北部訛りで話す、②60-70年代には南部で様々な政治工作に従事していたとみられる、③政府が公表した学歴には「法学士」とあるが、学校名は明らかにされていない、など“謎”の部分が多い。

*中国メディアは、同氏は広西チワン族自治区の桂林にある広西師範大学に留学していたとして、2005年10月には同氏が母校を訪問した様子を報じている。

*衛生部隊に勤務した軍歴もあり、医療資格(中級)も取得している。また、戦闘で4度負傷し、傷病兵の認定も受けている(表向きわかるような身体障害はないようである)。

*「猛勉強家で現実的な発想の持ち主」というのが同氏についての地元紙幹部の評。

同氏と会談したことのある外国人は「軍人のような所作をする」として、強面の印象が強いと評している。軍での経歴が長かったことから来るのだろう。

*〔訪日歴〕1996年6月：国際交流会議「アジアの未来」(日本経済新聞主催)の講師。

■副首相兼外相

Deputy Prime Minister & Minister of Foreign Affairs

Affairs

ファム・ザー・キエム

Pham Gia Khiem



第11期ベトナム国会第9回会議で承認された国家機関・政府人事で従来の副首相(専任)から外相兼任に異動になった(前任の外相はグエン・ジー・ニエン氏)。ズン新首相が国会に提案した閣僚10人(初入閣8人)が関わる内閣改造の“目玉”人事のひとつで、テクノクラート世代としては現内閣で最高位の閣僚となる。国家計画委員会(現計画投資省)の要職を歴任したのち、科学技術・環境相と副首相(科学技術・教育担当)に起用された。科学技術立国を目指し、ホーチミン市やハノイ市近郊でソフトウェア開発拠点やハイテク工業団地の整備を推進するなど知識型経済への転換を主導してきた。外相を兼任することになったのは、ズン新首相ら党・政府指導部が外交関係で経済・投資・貿易などの側面を重視する方針の表れとみられる。

▼データ：【党務】ベトナム共産党(CP V)政治局員【年齢】61歳(1944年8月6日生まれ)【生地】ハノイ【学歴】1967年：ハノイ総合技術大学卒。71-75年：旧チェコスロバキアの大学院に留学(理学修士号取得)。冶金学博士。オーストラリア留学(英語研修)。グエン・アイ・クォック党高級学校で研修。【経歴】1967-70年：バクタイ省(現バクカン省)工業電気大学講師。76年：国家計画委員会(現計画投資省)専門官、同委員会工業計画局長、科学・教育局

長。92年：同委員会副委員長。96年6月：科学技術・環境相、7月：党中央委員に選出(第8回党大会)。97年9月：副首相(科学技術・教育担当)、国会議員(第10期国会)。2006年4月：党政治局員に選出(第10回党大会)、6月28日：副首相兼外相(第11期国会第9回会議で人事承認)

【横顔】 [訪日歴] 2002年5月：国際交流会議「アジアの未来」(日本経済新聞主催)の講師。03年9月と04年4月にも訪日。日本には知人が多い。

■副首相 Deputy Prime Minister

#グエン・シン・フン
Nguyen Sinh Hung

約10年にわたりWTO加盟交渉を担当してきた外交官出身のヴー・コアン氏(68)が退任したことに伴い、その後任として財務相から昇格。

【党務】 政治局員 【前職】 財務相

■副首相 Deputy Prime Minister

#チュオン・ヴィン・チョン
Truong Vinh Trong

63歳。旧ソ連に留学したエコノミスト。主に汚職対策などの内政問題を担当する。【前職】 党内政委員会委員長 【党務】 政治局員

■国防相 Minister of Defense

#フン・クアン・タイン上將
Phung Quang Thanh, Sr Lt Gen
【前職】 副国防相/人民軍参謀総長

■公安相 Minister of Public Security

レ・ホン・アイン
Le Hong Anh

■法相 Minister of Justice

ウオン・チュー・リュウ
Uong Chu Luu

■内相 Minister of Internal Affairs

ド・クアン・チュン
Do Quang Trung

■計画投資相

Minister of Planning and Investment
ポー・ホン・フック
Vo Hong Phuc

■財務相 Minister of Finance

#ヴー・ヴァン・ニン
Vu Van Ninh

【前職】 副財務相

■貿易相 Minister of Trade

チュオン・ディン・トゥエン
Truong Dinh Tuyen



▼データ：本誌(03/02/01)

■工業相 Minister of Industry

ホアン・チュン・ハイ
Hoang Trung Hai

■天然資源・環境相

Minister of Natural Resources and Environment
マイ・アイ・チュック
Mai Ai Truc

■運輸相 Minister of Transport

#ホー・ギア・ズン
Ho Nghia Dung

【前職】 クアンガイ省党委書記

■建設相 Minister of Construction

グエン・ホン・クアン
Nguyen Hong Quan

■郵政・通信相

Ministry of Post and Telecommunications
ド・チュン・タ
Do Trung Ta

■科学技術相

Minister of Science and Technology
ホアン・ヴァン・フォン
Hoang Van Phong

■農業・地方開発相

Minister of Agriculture and Rural Development
カオ・ドゥック・ファット
Cao Duc Phat

■水産相 Minister of Fisheries

タ・クアン・ゴク
Ta Quang Ngoc

■教育・訓練相

Minister of Education and Training
#グエン・ティエン・ニャン
Nguyen Thien Nhan

【前職】 ホーチミン市人民委員会副委員長

■文化・情報相

Minister of Culture and Information
#レ・ドアン・ホップ
Le Doan Hop

【前職】 党思想・文化委員会副委員長

■労働・傷病軍人・社会事業相

Minister of Labor, War Invalid and Social Affairs
グエン・ティ・ハン
Nguyen Thi Hang

■保健相 Minister of Health

チャン・ティ・チュン・チエン
Tran Thi Trung Chien, Dr

■国家監察院長官

State Inspectorate General
#チャン・ヴァン・チュエン
Tran Van Truyen

【前職】 党監査委員会副委員長

■国家会計検査院長官

State Auditor General
#ヴオン・ディン・フエ
Vuong Dinh Hue

【前職】 国家会計検査院副長官

■少数民族委員長

Chairman, State Nationalities Committee
クソル・フォック
Ksor Phuoc

■人口・家族・子供委員長

Chairman, State Population, Family and Children Committee
レ・ティ・トゥ
Le Thi Thu

■体育委員長

Chairman, State Physical Training and Sport Committee
グエン・ザイン・タイ
Nguyen Danh Thai

■政府官房長官

Minister(Director), Government Office
ドアン・マイン・ザオ
Doan Manh Giao

■国家銀行(中央銀行)総裁

Governor of State Bank
レ・ドゥック・トゥイ
Le Duc Thuy

(アジア・リンケージ 勝田 悟)